

て私の情報源となっている。開館十時から閉館六時までいつでもかければよいし、いつでもよい。夏はウンウンと扇風機が回り、冬はストーブのはいる時珍しい旧館だが、図書館独特の客間気をかもし、利用者のナニもいさぐさして、大層を出すまいない。調べていことは可に聞けば、探すならわにでもいけるというのだ。

これ程の恩恵を個人的に受けるというのに美質を払ふ必要はない。

適當な金額を納めたらあとは私流に、いかに自分に、家族に知人に還元できるかを考えた方が賢明ではないだろうか。こう考え方を改めて見渡すと、日増のすべての生活に税金の恩恵を受けていることに気がつく。私は税金は生活を営むうえで安心料のようなものだ。

収入には関心持て  
 こそ書いてみて、当初税金なものも考えたいたの頭の良さに感

大分県立日田商業高等学校卒業後、農関係の会社に勤務。現在は一児の母。児童文学の研究が趣味。

▲川津 三千代▶昭和二十四年五月、大分県生まれ。大分

の入賞者

筋屋町一三九  
▲佳作▽賞金三  
にえだ 仁戸田 隆司  
国家公務員  
和歌山県東牟婁郡那  
里三三八九  
しらつか 白塚 三千雄  
無職

公共物利用で税金還元

も勉強すれば、税金がかえってき  
たり、安くなったりする事は多い  
ものだ。みすみす支払い過ぎる

とも、今までの歴史を振り返って  
 みると、竹園閣級の人々が、暴判  
 をむきこぼした事例のなんと多いこ  
 とと。市広報紙は金言、

この程度を考えてしまふと、他の公共施設も全く同類だと思つてしまふ。果、主権の行事や講演会は、だいたひ無料かそれに近いものだ。講師を呼ぶにしても、もちろん、私たちの税金からかと思つて、できる限り時間をつくり、参加出席してしまふ。私流の自分への税金の還元方法である。それがまた、市側の、主権者側の思ひが、

必経はなのである。一般に日本人は税金に対して無関心すぎるのではないだろうか。私たちは、税金の内容を知り、義務は義務で遂行し、受けるべきことは甘んじて受け止めてはいないか。

私の知人は「税金、税金って恐ろしいからいけるけども、全額はとつていいじゃないから」と豪語している。税金の知識をもつて

もちろん無料配布されるが(市民税でまかなっているはず)、県の広報やP&T誌は葉書一枚に「送って下さい」と書いて投函するだけで毎月、きっちり送付してくれる。おかげで県政や県内の隅々での活躍を知ることができる。この道も、この公共施設も私達の税金で……、と思うと、たかが税金、安い安いという気持ちにさえな

とか。時代がどんなに変わっても悪用する者が多い今日、私たちが民はその収にもっと関心を持つべきだと思う。

知らずに損するこの多い税金のことがより関心を持ち、安心料を支払った後は多くのものを自分に還元するところに努め税金に疑問が生じた。無料相談所の税務署にかけあちと思っています。

第132回のテーマ

管理をしなければ、対象が無意味

最近、税制改革についての議論が盛んになつてしまつた。

第二に、脱税の手段として用いられやすい割引金融債のあり方を再検討してはどうか。割引金融債は、発行している金融機関の本店へ行けば、無記名で購入

附するものである。国民は増収に依る必要は全くない。教育費控除を設けよ

第三に、子供を扶養している納税者に対して、教育費控除を設け、子供の学費分を所得から差し引くことである。国民は必ず所得金額から税金を納めなければならない。課税の側でも、帳簿が提出されていなければ、申告内容をチェックすることができない。領収書を発行していない場合が、領収書を保存していれば、申告内容をチェックすることができ、増収に依る必要は全くない。

型ではないか。私は、大聖閣様を  
を盗ったところから税務署へ入  
告すれば、税金を盗んだから源泉徴収  
を受けることになる。私がいま訴えた  
正すべきである。私がまず訴えた  
最後に、税制改革と並行しながら、税金の無駄遣も徹底的に是正するべきである。私がまず訴えた

するところである。その上、割引料に対する税金は、源泉分離課税料に對する税金は、源泉分離課税一六〇と格差になっている。従つて、所得税・法税・相続税・贈与税の対象となす所得や財産で割引金債権を購入し、どこかわからない所へ隠したければ、うまく税金を逃れることができるかもしれない。なぜのような簡単に所

引くべきである。子供の学費は年々高額になり、母親もパートで働かないと家計がやりくりできない。家庭でも多くなっている。子供の学費は、所得から消えてしまふお金であり、控除するのが当然と言へよう。現状においては、私学に対する助成も十分とは言えず、教育費控除によって、少しでも税

には、申告を容易にチェックすることができない。従つて、政治家・農家・自営業者など確定申告が必要な人については、正しい帳簿を提出させ、税務署はこれを徹底的に調査するのがよい。そうすれば、税の不公平が多少でも是正されると思う。

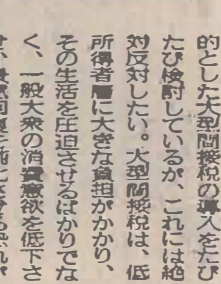
第五に、政府は国税の増収を自

は、家庭教師や塾のアルバイトなどで、がっぽりお金を稼いでいるからである。従つて、一月月の小遣いも、一般のサラリーマンよりはるかに多く、せいぜいたな生活をしてゐる。こんな子を見逃しておくのは良くない。彼らからも所得税をとつてもう少し質素な生活を身につけさせてはどうかと思

いは、参議院の廃止である。日本国憲法においては、国会等弊害の慎重を期するため、一院制が規定されている。しかし、衆議院の議決が参議院より優先しており、参議院がなくとも、国会の運営に支障はないと思われる。衆議院で議決を慎重に討議し、国政を円滑に運営すれば、無駄な時間と費用が節

参院廃止など歳出減られ

—入 選—  
おおしま せいいちろう  
大嶋 誠一郎



の負担を軽減することが好ましいと思う。ただし私立の医・歯学部には高額の学費を徴収する学校があるため、教育費控除は年間五〇万円を超えて二人以上の家族を養

ある。現状を察しても、消費は大きく伸びたらず、アメリカをはじめとする諸外国での日本製品輸入制限など、日本の景気を悪化

ほとんどが、塾に通っているか、家庭教師に教えてもらっている。それだけ、教育産業に対する需要が多く、学生のバイト収入に税金府に改善を要請すべきだと思う。

なる好意を親切扱いにすればよいわけだ。政府は、マル俾制度の悪用防止対策として、住民票や免許証にふり込まれた金融機関に義務付けられているが、限度枠内に収まっているが、限度枠を超えていると、金融機関に通知するところだ。金融機関に通知された場合は、金融機関の責任で、その旨を政府に報告する。政府が、富の金融機関の責任を、金融機関に押しつけて、政府が責任を負うことになる。政府が、富の金融機関の責任を、金融機関に押しつけて、政府が責任を負うことになる。政府が、富の金融機関の責任を、金融機関に押しつけて、政府が責任を負うことになる。

第四に、サラリーマン以外の人々の確定申告において、白申告は廃止すべきである。白申告で領収書を確証することによって控除額を認めていけばよい。

万円の控除と、粉微塵にも税金のたまる税引控除との差を認め加増してゐると見える。そこで、政府は、輸出に依存する日本経済を、内需拡大政策によつて、国内の経済を活性化させ、豊かにならねばならぬとして、それなら、大型間接税を導入

在大嶋 誠一郎▽昭和三十八年五月、京都府生まれ。現  
在、同志社大学経済学部四年。作文が趣味。

税制への不満、根強い公正感 正論論文を審査して 産経新-1985.11.10

聞

論文を審査して

の切実な関心事であるだけに、

450

建設的な意見

極的な提言や真摯な体諒が多かった。税金にたいする不公平感、国民のあいだにきわめて根強い、かりか、税制にたいする不満や、きいては不満感された。論文の部分は、そのうち不滿の表現であったが、入選一席の川津三

でも実行された。……  
遣いがなくなるとい  
にはいられない。佳

感王公  
塚三千雄  
日本の  
基礎  
「勤王」



不満、根  
の文章  
でのホ  
から間  
ながら  
起した

## 税制への不満、根強い公平感

聖三千雄  
 日本のも  
 玉穂と云  
 フ勸告」  
 べきこと  
 を展開し  
 第三席の  
 んの文章  
 でのホー  
 から間接  
 ながら納  
 起したも  
 選外の選  
 は、以前  
 め、今回  
 学教師と  
 で私も身  
 が、いま

「これが学生のものかと思われ、ほとと理路整然とした税制合理化でであり、やはり高得点であった。こんな優秀な学生が将来税務吏になったら、ちよっといかにいう感想もあった。」

佳作第一席の仁戸田隆司さんの筆は、年度末にならずに算をあらわ

であつた。

今月で審査員が交差の一年間、私自身もオシに学ぶところが多後とも読者に開かれたクな紙面を大いに活用を次々にお寄せ下さるやまない。

第134回  
全國縦断  
正論

山口・熊毛郡講

◇日時十一月二十四日  
(日)午後零時半開場、一時  
開演  
◇会場 田布施町農協会館  
(山口県熊毛郡田布施町、国  
鉄田布施駅前、☎〇八二〇五  
一三二二七)  
◇講師とテーマ(敬称略)

▽サンケイ新聞山  
(公)〇八三九一二三一  
三三  
▽山口県教育推進局  
毛郡支部内「正論山口  
郡講演会」(公)〇八一  
六一三四一八